

# やまと 民俗への招待

鹿谷 熱

この夏、奈良市内の餅飯殿山上講に加えていただき、久しぶりに大峯山に登った。曇天が続く7月22日早朝、餅飯殿商店街にある弁財天社前に徐々に男たちが集まっている。中学生も1人いる。

午前6時前に、揃って弁天社にお参りをする。町内の人々を中心に、縁故のある人など総勢18人が猿沢池畔からマイクロバスに乗って天川村へ南下した。午前8時半ごろ、洞川の登り口、清淨大橋に着く。小雨の中、吉本雅俊さんを大先達として、早速登り始める。午前10時半、洞辻茶屋で休憩。鐘掛岩を経て正午過ぎ、山上に着いた。まず

龍泉寺の宿坊に入り、昼食後、揃って大峯山寺本堂に参拝。内々陣の秘密の行者も拝観させていただく。18年前の戸開式で初めて拝した時の厳しい相貌ではなく、穏やかな姿に見えた。堂内で護摩を焚いて、本堂前で記念写真を撮る。天候が悪く裏行場修行は中止となり、西の覗きへ向かう。

大峯山に何度も登りながらこれまで機会がなかった視きの行を初めて体験した。二人に両側で介添えされ、綱を頼りに岩場から身体ごと下へ吊り出される。「嘘はつかぬこと!」「墓参りはちゃんとするか!」などと大きな声で返答する。



金剛合掌をしていないと落ちると山先達から説明を受ける筆者（西の覗きで、撮影・藪田洋輔）＝筆者提供

覗きの行は、初めて山上参りをした新客が行う試練で、成年戒である。子供の頃、父親から大きくなったら山上参りをしてこれをしないといけないと何度も言われた。子供心に恐怖心を抱いていたが、60年近く年月を経て、ようやく義務を果たした気がした。

山上参りが終わるとすぐに梅雨が明け、猛暑の8月1日に、知人に誘われて、近江八幡市北端の伊崎寺の棹飛びを見に出かけた。伊崎寺は天台系の修驗寺院で、比叡山で

「百日回峰行」を終えた僧侶が、岩場から突き出た長さ13㍍ほどの角材の先端から、7㍍以下の琵琶湖に飛び込む。全国から修行に集まつた12人の僧侶が、お経と法螺貝の鳴り響くなか、大きな音と水しぶきを次々に上げていた。終了後、真夏の陽光のなか、どの僧も表情は溌剌としていた。民俗社会でも僧侶の修行で超えるべき「試練」が設定され、異年齢団体のなかで経験が伝えられながら、成長をつながすというシステムがつくら

表

（奈良民俗文化研究所代

## 山の試練、湖の試練

II 次回は9月11日